

ろの方々に連れて歸られました、實に人の運と云ふものは妙なもので、今少し早く自殺をしたなら、ソレでモ一此の世の人では無かつたのが、少し計り後れた計りで非常な好運で御座います、た、尙ほ藤丸一等卒は此の時までも死んだ真似をして居たが、小隊長の聲を聞くとき、齊しくムツクリ起上り、「モシ小隊長殿で、御座いませんか」と云ふから伊木中尉は其の顔を見られて、何だ藤丸か、貴様其の顔は一体どうした、丸で血達磨ソツくり、伊木中尉は之を聞かれて「イヤどうも貴様は天晴のものだ、ソレ云ふ難儀な時分に顔に血を塗り死んだ真似をするとは、臆病に似て決して臆病では無い、ソレ程に餘裕のあるのは實に感心、決して死ぬる計りが國の爲めでは無い、サー己れが連れて行くか、大丈夫じや、早く来い」と云ふて之も同じく助けて歸ら

れました、此の福岡二十四聯隊第五中隊の苦戦と云ふのは、毎々申上ぐる通り實に非常のもので、一寸御参考までに申し上げます。

戦死傷者合計

三百四十四名

内

戦死者 三 名

下士 八十 名

負傷者 二百五十三 名

下士 八 名(内特務曹長三名)

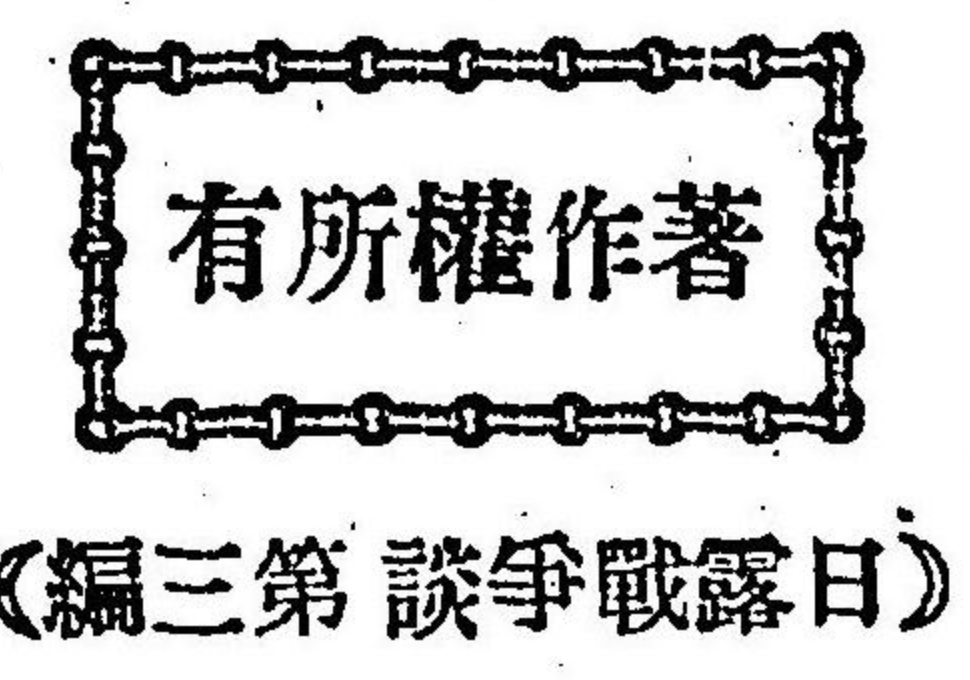
是の統計は第二十四聯隊全体の死傷者で御座います、其の内將校の戦死三名は凡て第五中隊のお方で御座います、之を以ても第五中隊の苦戦であつたと云ふとはお分りになります。

是までが九連城攻撃大體のお話して、是から個人々々の名譽話
しに移る筈で御座います、是れは第四編に於て細かにお伺ひ
申すことに致します、尙ほ大村第四十六聯隊、小倉砲兵聯隊の働
らき、騎兵聯隊の活動やら三ヶ師團將校の姓名やらは、茲に一
々中述べ盡されませんから、第四編には各聯隊長各中隊長より
戦死者負傷者まで詳細に取調へお話し申すと致します。

新編 日露戰爭談 (第三篇) 終

明治三十九年十月一日印刷
明治三十九年十月五日發行

定價金四拾錢



著者 美 富 一 調
發行所 此 村 庄 助
印刷者 吉 村 源 次 郎
印刷所 山 田 元 吉
大阪市南區順慶町通四丁目百七十九番邸
大阪市南區葦町通二丁目四十一番邸
大阪市南區安堂寺橋通二丁目二十六番邸

發行書肆 此 村 欽 英 堂
大阪市南區心齋橋通順慶町北へ入
〔電話東二六八六番〕

益井俊二著

陸軍人書簡文 全二冊

正價金拾貳錢
郵稅金四錢

益井俊二著

最新祝辭弔祭文例 全二冊

附演說法
正價金拾貳錢 郵稅四錢

最新滿韓地圖 全一册

附滿州都市圖
歐亞略圖

宗孟寬製圖 正價金拾錢
郵稅貳錢

尙武劍舞會編纂

勇壯快活 征露劍舞 全二冊

正價金七錢 郵稅貳錢

此村欽英堂發行

勝廼舍大人著

日本力 萬歲新唄 全二冊

正價金七錢 郵稅四錢

日露戰爭 遊藝隊長 全一冊

正價金七錢 郵稅四錢

